

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取中央育英高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	平成31年4月26日
------	----------------	-----	------------

1 学校目標	
<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成</p> <p>(1) 高い志と自ら学ぶ力</p> <p>(2) 確かな学力と公共の精神</p> <p>(3) 自らを律する力と他を思いやる心</p> <p>(4) 率先して行なう勇気と協力して成し遂げる知恵</p> <p>(5) 健やかな体と感動する心</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>本校は県内でも数少ない体育コース設置校であり、その体育コースの生徒を中心として部活動での全国レベルの活躍や学校の活性化を図ってきた。</p> <p>これまで体育コースの取組として、人間力の向上を中心とした事業を行ってきたが、競技力の一層の向上を目指した事業を取り入れることにより、競技者としての意識と技術の向上を図るとともに、指導する教職員（運動部指導者）においても指導力の向上を目指す取組を行い、体育コースや部活動の更なる充実を図り、各部活動の中心選手として全国大会で活躍する生徒を増やす。</p> <p><数値目標></p> <p>陸上…全国大会入賞5名以上、全国総体出場10名以上、全国高校駅伝、国体等全国大会出場</p> <p>水球…全国大会上位入賞、全国総体、国体、全日本ジュニア選手権へ出場15名エントリー</p> <p>レスリング…全国大会入賞5名以上、全国総体、国体、全国選抜へ出場7名エントリー</p> <p>山岳…全国大会上位入賞、全国選抜、国体等へ出場4名エントリー</p> <p>バレー男子…全国大会入賞、全国総体、全国選手権等へ出場18名エントリー</p> <p>ソフトボール男子…全国総体、全国選抜等へ出場18名エントリー</p> <p>野球…甲子園、選抜大会出場へ出場18名エントリー</p>	<p>各種の講座を実施して行くごとに、生徒の部活動に対する取り組み方により変化が出てきた。</p> <p>トップ選手たちの心構えを学ぶことで、私生活からの見直しを意識させることができた。</p> <p>個人としての技術や意識の向上だけではなく、チームとしての意識の向上を上げるきっかけとなった。</p> <p><数値結果></p> <p>陸上…全国総体8名出場、国体2名出場（少年B 100m 優勝）、日本選手権リレー1名出場、全日本ジュニア8名出場、中国大会3名入賞、都道府県女子駅伝1名出場、日本選手権リレー1名出場</p> <p>水球…全日本ユース水球選手権出場、中国高校選手権4位、ミニ国体3位</p> <p>レスリング…全国総体3名出場、国体4名出場、（5位入賞1名）、全国大会入賞1名、中国大会個人優勝1名、中国大会入賞5名</p> <p>山岳…全国選抜大会2名出場、ユースクライミング大会3名出場、ミニ国体3位</p> <p>バレー男子…全国総体出場、全国選抜大会出場</p> <p>ソフトボール男子…全国総体出場、全国選抜大会出場、中国新人大会3位</p>

3 実施事業

【高等学校課事業】

・外部人財活用事業（社会人講師活用事業）

ア トレーナーマスター「スポーツと栄養」

実施期間（全5回）

11月6日（火） 11月20日（火） 12月11日（火） 1月22日（火） 2月5日（火）

講師 山田恭子（清水病院管理栄養士）、岡 祐子（鳥取県栄養士会）

対 象 1年D組 体育コース 生徒37名

イ トレーナーマスター「スポーツとマッサージ」

実施期間（全3回）

12月3日（月） 12月10日（月） 2月4日（月）

講師 伊藤啓太（ボディケア・ジェリコ）

対 象 2年D組 体育コース 生徒30名

【独自事業】

1 ウェイトトレーニング講習

実施期間（全2回）

2月19日（火） 3月12日（火）

講師 前田征士（鳥取県アスレティックトレーナー協議会）

対 象 1年D組 体育コース 生徒37名（1時間）

2年D組 体育コース 生徒30名（2時間）

2 トップアスリート講演会

実施期間（全2回）

ア 4月20日（金）

講 師 藤森善弘（日本体育大学水泳部競泳ヘッドコーチ）

対 象 1～3年D組 体育コース 生徒100名

イ 11月27日（火）

講 師 安井博志（（公財）日本山岳・スポーツクライミング協会日本代表ヘッドコーチ）

対 象 1～2年D組 体育コース 生徒68名

3 トップアスリート養成事業

実施期間 10月16日（火）～18日（木）

場 所 環太平洋大学（宿泊：環太平洋大学の研修施設）

対 象 1年D組 体育コース 生徒37名

日 程 1日目 大学紹介・学校案内・栄養講座・講演会

2日目 体験授業（スポーツビジネス・スポーツ障害・部活動体験等）

3日目 体験授業（トレーニング理論）

4 指導者研修（コーチングを学ぶ）

実施日 3月4日（火）

講 師 岡本直己（中国電力陸上競技部）

対 象 1～2年D組 体育コース 生徒68名

5 メンタルトレーニング講習会

実施期間（全3回）

9月7日（金） 11月19日（月） 2月15日（金） 各講座2時間

講師 石原端子（沖縄大学人文学部准教授）

対 象 1～2年D組 体育コース 生徒67名

【その他事業】

なし

4 総合所見（成果・評価）

・各事業の成果もあり、県大会で優勝や入賞し、全国大会出場する部も多かったが、目標として掲げている全国大会での入賞は少なかった。今後も事業を継続実施していくことで、生徒の競技力の向上と教員の指導力の向上に繋がることを期待している。

・主な事業は体育コースの生徒を中心に実施しているが、放課後部活動の時間帯に指導していただく機会があったり、体育コースの生徒から刺激を受けて部活動で切磋琢磨したりする雰囲気が生まれており、普通コースの生徒でも国体少年B100mで優勝者を出すことなどができたのは大きな成果である。

・ウエイトトレーニング講習については、受講場所と人数を考えながら早め実施し、より効果的な講習としたい。

・1年生体育コースに実施したトップアスリート養成事業は、大学生活を体験し、全国レベルの部活動に参加することにより、スポーツ選手としての意識付けができ、その後の学校生活で活かすことができた。

・メンタルトレーニング講習会は、一定期間をおきながら実施することにより、自分自身の変化や成長を実感させることができ、生徒の間で意識の向上が見受けられた。

※枚数任意